

令和8年度第1回仙台市科学館協議会会議録

日 時 令和8年5月28日（木） 15：00～16：30
場 所 仙台市科学館2階会議室
出席委員 磯部裕子委員、大草よしえ委員、工藤正子委員、
佐藤美嶺委員、高田淑子委員、戸津健太郎委員、
長島康雄委員、藤井朱鳥委員、松岡晃一郎委員（計9名）
欠席委員 高橋昌勝委員
事務局 加藤館長、菊池副館長、須藤庶務係長、羽澤主任、
宮崎主任指導主事、菅原指導主事
傍聴人 無し

議事要旨

- 1 開会
- 2 委員紹介・委嘱状交付
- 3 職員紹介
- 4 館長挨拶
- 5 議事
会長及び副会長選出
○会長に長島康雄委員、副会長に工藤正子委員を選出
- 6 会長挨拶
○ 長島会長が議長となり会議を進行
○ 議長より議事録署名人に戸津委員を指名
- 7 報告事項

(1) 令和8年度仙台市科学館事業計画について

○宮崎主任指導主事から資料1、参考資料により説明

(質問等)

○高田委員

昨年は来館者が非常に多かったとのことで、企画展、特別展、展示物リニューアル工事ともに成功して良かったと思う。引き続き今年も頑張っていたきたい。

昨年度の科学相談件数について大学・一般が107件あったとのことだが、これは大学生が多いのか。

○事務局

一般の方からの相談が多い。

○高田委員

イベントの電子申請化は現代の流れを汲んでいてとても良い試みだと思う。物理化学系の科学教室参加者を増やすのが課題とのことで、人を惹きつけるようなキャ

ッチコピーと絡めて人を集められると良い。

今年度は天文台と連携するという点は喜ばしい。せっかく仙台市にある2つの科学系施設同士、協力できると良い。

(2) 夏の特別展について

○菅原指導主事から資料2-1、2-2により説明

(質問等)

○佐藤委員

SNSでの広報はXだけで行うのか。若い小さいお子さんがいる家庭だとXよりInstagramの方が届きやすいように思う。

○事務局

当館で現在運用しているSNSアカウントはXのみである。

現時点では当館ホームページやX、NHKの公式ホームページでの発信を行う予定。また毎年行っている宮城県内、仙台市内の小中学校、幼稚園、こども園等へのチラシ配布も行う。

○佐藤委員

なるべく様々な方の目に留まるよう広報していただきたい。

JAXAは災害食学会の立ち上げにも協力いただいております、また現在テレビドラマでも宇宙食の話をやっていて、皆さん大変興味がある分野だと感じている。宇宙食は中身だけではなく、災害食にも応用されるようなパッケージの開発にも関わっていて、面白い話がたくさんあるのでご検討いただきたい。

○事務局

宇宙食に関してはサイドイベントを検討している。県内企業で「旅するかまぼこ」という、かまぼこを宇宙に持っていく計画を進めており、そういった話を講演会に盛り込んでいく予定である。

○長島会長

天文台と共同で取り組めるのはとても良いので、その辺りを大々的に広報できると良い。

仙台市科学館は東北大とも関係があり、日本を代表する科学研究の展示場所という意味合いがある。是非そういう部分を強く推し進めてほしい。

また、今まで博物館の方ではテレビ局とよく共催しているが、科学館ではなかった。それが今回、科学館でもNHKと共催するとのことで、大きく変化があったと思う。この方向でこれからも進めていただきたい。

○高田委員

天文台では宇宙探査の分野はあまり取り扱ってこなかった、どちらかというもっと遠い銀河の方面をやっているように思う。なので地球から火星が地続きになるような、そこにターゲットを置いたのは良い。

二点ほど。例年こどもたちが触って活動するような展示が良かったが、今年は見学する展示が中心なのか。これから体験型の活動は増やしていくのか。また、例えば「（小惑星探査機）はやぶさ」などは東北地域の中小企業も携わっており、身近な企業も宇宙に携わっている話も盛り込めたらよいと思う。

○事務局

展示物を実際に触って体験するものは少ない。火星の砂、実験用の砂を触る体験などは予定しているが、やはり見る展示がメインになる。サイドイベントの中で小さなお子さんでも楽しんでいただけるような体験型のイベントを増やしていきたいと考えている。

○長島会長

国立天文台で火星の工作、火星儀、月球儀のペーパークラフトを公開している。そういったものを参考に、企画の一つとして工作教室を設けるのはどうか。

宇宙関連の展示となると基本的に画像しかない。その中で、地球帰還時の焼き爛れた実物が展示されるというのは、仙台市科学館の役割としてとても重要だと思う。実際に体験できるというのはやはり大事。

○事務局

昨年度の特別展では問題を解きながら館内を回って楽しんでもいただける「ジュニアガイド」を開催し、今年も開催する予定。

現在体験型イベントで予定しているのは、宇宙飛行士になる訓練で用いられるホワイトパズル、真っ白なパズルを組み上げる体験、鏡越しに迷路をなぞる潜望鏡体験。あとは東北大のARES Projectの協力で、エントランスで火星探査機の操縦体験を検討している。

○長島会長

磁鉄鉱の現物や模型があって、隕石はこのくらい重いか示せると良い。貸してくれるところはあるか。

○事務局

天文台で所蔵しているが、高額備品扱いのため触れるなどの体験は難しいと思われる。

○長島会長

ならば天文台に誘導できる仕掛けがあるとよいかもしれない。天文台に行くと現物が見られますよというような。せっかく連携しているのだから本物が見られるよう誘導できると良い。

○松岡委員

天文台への誘導は良いと思う。

○藤井委員

特別展の来場者内訳は、団体客が多いのか、個人客が多いのか。

○事務局

昨年度はおおよそ一般が4万人、小中学生が2万5千人ほどだった。家族連れがメインである。

(3) 科学館学習新規授業について

○菅原指導主事から資料3により説明

(質問等)

○大草委員

発電の仕組みを、科学史を遡りながら紐解き、歴史的な経緯やこれからの発電を考えていく流れが良いと思う。リニューアル展示のサーモグラフィーを活用しており、地元仙台の特色も出せていて期待が持てる。

西澤潤一先生の世界第一号赤色発光ダイオードの展示がせつかくあるので、仙台から赤色発光ダイオードは生まれたという歴史を絡めていけたらいいのではないかな。

これだけ世界に普及している技術が仙台で発明されたというのはこどもたちにとっても驚きだと思うし、より愛着を持って学んでくれるのではないかなと思う。

LEDを作った実際の装置が東北大の西澤資料室で公開しているので、興味がある人が見に行くよう誘導できれば良いし、モチベーションに繋がると思う。地域の展示や資源をぜひ活かしていただきたい。

光のページェントも、西澤先生の発光ダイオードがきっかけだったという話がある。半導体研究所の前にあるモミの木に西澤先生がLEDや豆電球を飾り付けたのを見て、商店街の人たちが始めたとのことで、始めたきっかけのモミの木もまだ残っている。

こういった部分で科学の歴史と地域とのつながりを感じてもらえれば良い。

○戸津委員

片平キャンパスにスタンレーから寄贈された赤色灯がある。LEDは東北大の西澤先生が貢献された技術なので、取り上げる機関ではありたいと思う。

また発電素子に関しては(株)トーキンが有名である。こういうのも地域とのつながりとして考えられる。

○長島会長

提案内容のボリュームが結構あるので、廊下にパネル展示するのはどうか。すべて授業に盛り込むと時間が足りないと思われる。こういった技術が仙台から生まれたという導入をすると、こどもたちの動機付けになると思う。

○事務局

仙台に根差した技術を伝えるうえで参考にし、取り入れていきたい。

○佐藤委員

まとめの部分に関して、二酸化炭素削減についてこどもたちに考えさせると、化石燃料を使うのではなく水力発電などにどんどん移行していったらいいという結論になりがちである。しかし自然環境を使う発電にもうまくいかないところはあり、

かえって環境悪化につながる場合もある。発電方法それぞれに課題はあることに気付けるようにしたほうが良い。

○事務局

こどもたちが自分の知識で考え自分で選択していくということがとても大事なので、誘導にならないようメリット・デメリットを伝えられるようにしたい。

○工藤副会長

科学館学習は学校での普段の授業でカバーしきれない部分を体験させてくれるのでありがたい。今回の授業内容は単元としては時期が早い。科学館学習の良さというのは、自分が習っていない単元をちょっと先取りして興味関心を高めてもらい、学校で学習する際のモチベーションに繋がる部分がある。楽しみにしている。

○磯部委員

こういった授業開発をするのもかなりの苦労があるように思う。授業づくりについて装置づくりだとか、生徒に伝わるにはどのようにするか、どう悩みながら教材を作成したのか、そういった苦労話をこれから教員になる学生に伝えてほしい。現場の教員もこのように悩みながらやっているという話を。

○事務局

決まった研修会はしてないが、大学の先生などから科学館学習の見学とレクチャーの要望は年に数件ある。ご希望の場合、事業係に相談していただければ、喜んで苦労の点も含めて説明対応する。

(4) その他

○報告事項無し

8 事務連絡

次の開催日程については、今回と同様にメールで日程調整させていただく。

9 閉会

令和 8 年 9 月 3 日

議事録署名人

仙台市科学館協議会 会長

長島 康雄

仙台市科学館協議会 委員

松岡 光一郎